

社団法人私立大学情報教育協会
平成 22 年度「大学職員情報化研究講習会」研修レポート

タイトル：「就職し、社会で役立つ人材育成を目指して」

《課題認識》

私たち B 班第 3 グループは、大学の役割の一つである「社会に役立つ人材育成」という観点から、現在、大卒予定者の 7 人に 1 人が留年しているという「就職留年」の問題を取り上げた。

初日の講義を受け、「就職留年」が起きている背景には、単に不況という外部的な要因だけでなく、就職活動を積極的に行わないという学生側の問題もあることを認識した。

そこで、この課題の解決を図るに当たり、まず、学生のどのような点を指導、改善していけばよいか、またそのために我々教職員は業務上、具体的にどのような点を改善すべきかを検討することとした。

《討議内容》

学生を指導、改善する点として私たちは次の 3 つを取り上げ、併せて必要な対策、業務上の課題等を検討した。

① 就職意欲を高める。

(対策) 集約された学生情報に基づき、適切な就職指導、履修指導、生活指導等を行う。

② 社会人基礎力を高める。

(対策) 履修した科目が具体的にどのような社会人基礎力育成に結びつくかを学生に明示する。

③ 自主性を高める。

(対策) 学生を受け身でなく意欲を持って授業に臨ませるため、授業に対する学生の感想や意見等を授業の改善に生かすとともに、改善結果を学生に明示する。

業務上の課題としては、必要な情報を各部署間や部署内で共有、活用していないため学生の指導が適切に行われていないこと等が挙げられた。例えば、就職指導をするに当たって、学生の履修科目や成績を把握していなかったり、逆に、履修指導をする上で、学生が将来どのような進路を希望しているかを把握していない。また、部署内においても、学生との面談等を通じて担当者が入手した情報が集約・共有化されておらず、別の担当者が活用できない等である。

以上の検討を経て、学生を適切に指導する手段として、「就職し、社会に役立つ人材育成」という目標に基づいた情報の一元化と活用が必要であるという結論に至った。

《提案内容》

情報の一元化と活用を進め、効果的な学生指導に結びつけるための具体的な提案内容は以下のとおりである。

① 各部署等で保有している学生情報の一元化

学生の履修状況や出席状況、就職希望状況、また多くの大学で設けている担任教員制における学生の指導状況、面談情報等を一元化し、適切な指導に生かすことによって、学生の就職意欲を高める。

② シラバスにおける社会人基礎力育成に関連する授業の分類

プレゼンテーション、グループワーク等の参加型の授業、学外での社会体験型の授業、企業人を招いてのオムニバス形式の授業等、社会人基礎力育成に関連する授業を抽出、分類し、学生に分かりやすく提示する。このことによって、学生の社会人基礎力育成に結びつける。

③ 授業アンケート結果に基づく改善内容の学生への明示

授業アンケート結果のうち、改善が必要な点を授業へ反映するとともに、改善結果を授業科目ごとに学生に明示することにより、学生が自らの意見を述べやすい環境を提供し、学生の自主性を高める。

情報の一元化とその活用の在り方を評価、改善していくためには、集約された学生情報の中に就職内定状況、満足度調査等の項目を設け、学生自身が入力できるようにしたり、情報を共有する部署間での定期的な連絡会を開催する必要がある。

また、情報の一元化と活用における留意点としては、個人情報保護の観点から取り扱いルールを策定することや、データ入力の実行責任の所在を明確にするためデータへのアクセス・更新履歴を残す必要が挙げられる。

以上をまとめると、情報の一元化と活用ができていないのは、その目的の設定と共有が希薄である点にあるといえる。情報の一元化とその活用に取り組むためには、共通の目標設定に基づくことが必要である。今回は、「就職留年」という問題から、「就職し、社会に役立つ人材育成」という目標達成を設定し、情報の一元化と活用について個別具体的に検討することができた。このように検討された上記①～③の方策を実行し、評価・改善を重ねることにより、就職率向上及び社会に役立つ人材育成を実現できると考える。